

令和4年度

租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会会長
(女川町教育委員会教育長)

3 実践者紹介 (発表者)

石巻市立飯野川小学校	教諭	星	深	雪
石巻市立稲井小学校	教諭	千	孝	洋
東松島市立鳴瀬未来中学校	教諭	武	山	友里恵

(資料提出者)

石巻市立雄勝小学校	教諭	齋	藤	咲	花
石巻市立荻浜中学校	教頭	白	石	善	郎
石巻市立牡鹿中学校	講師	栗	原	春	奈

4 実 践 発 表

5 質 疑

6 閉 会 挨 拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石巻税務署長)

7 閉 会

実践発表会資料

石巻市立飯野川小学校

教諭 星 深 雪 1

石巻市立稲井小学校

教諭 千 葉 孝 洋 8

東松島市立鳴瀬未来中学校

教諭 武 山 友里恵 12

石巻市立雄勝小学校

教諭 齋 藤 咲 花 18

石巻市立荻浜中学校

教頭 白 石 善 郎 25

石巻市立牡鹿中学校

講師 栗 原 春 奈 30

令和4年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立飯野川小学校

教諭 星 深雪

1 はじめに

石巻市立飯野川小学校は、明治6年に「相野谷小学校」として開校し、東日本大震災後に、飯野川第一小学校と飯野川第二小学校が統合され、現在の飯野川小学校になった。飯野川小学校では、「志高く、未来を拓く児童の育成」を学校・地域教育目標に掲げ、この教育目標具現化のために、目指す児童像を「やさしい子」「かしこい子」「たくましい子」「地域と共に生きる子」とし、地域とのつながりを大事にしながら教育活動を進めている。

学区内には、総合支所、消防署などの公共施設が数多くあるが、実は税金で建設されたり、運営されたりしていることを知らない児童が多い。よって、今回の租税教育を通して、児童が地域と税との関わりについて学べるようにしていきたい。また、学区の特徴として、昔ながらの商店が立ち並び、身近なところに買い物などの消費行動を目にすることは多い。ただ、地元の商店で買い物をするよりも、少し足を伸ばした大型店舗での買い物の機会のほうが多く、自分自身での買い物の経験はあまり多くない。金融機関は郵便局や銀行などが充実しているものの、県民税や市民税、自動車税などの各種税について金融機関を通して払い込んでいることを目の当たりにした経験は少ないと言える。したがって、児童が自分と税との関わりについても学べるようにしていきたい。

2 児童の実態（男子18名 女子12名 計30名）

本学年の児童は、委員会の仕事、当番の仕事など、自分の役割をしっかりと果たす責任感の強い児童である。学習では、難しい課題や初めての課題には抵抗を示すこともあるが、基本的には真面目に取り組み、友達と一緒に解決しようとしたり、理解しようと努力したりする姿も見られる。

また、社会科の学習では、「国の政治のしくみと選挙」の単元で、公共サービスや公共施設にかかる費用の多くは税金で賄われていることを知り、税金の働きについて調べる学習を行ったが、具体例などを示しても、なかなか実感がわかないようだった。

つまり、税に対する基礎的・基本的な知識や興味関心が乏しいと考えられる。

そこで、今回の租税教育を通して税に関する基礎的・基本的な知識と理解の定着を図り、税に対する興味関心を高められるようにしていきたい。

3 指導に当たって

指導に当たっては、前述を踏まえ、次の三つの手だてを講じていく。

(1) 自分と税との関わり

成長に伴い消費税を実際に支払う場面が多々出てくるので、特に自分と消費税との関わりを重視していく。そのために、実際の買い物を通して、どれくらい消費税を納めたことになるか算出し、納税を実感できるようにしていく。

(2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

税務関係者等を講師として招聘し、租税教室を実施する。その中で、税金とは何か、消費税以外にどんな税の種類があるか、税金は何に使われているかなどについて具体的に教えていただくようにする。

(3) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)の手だてを講じた上で、振り返り(学習感想)の機会を十分に確保する。今後の自分と税との関わり方について考えさせ、価値付け、称賛していく。

また、「税に関する絵はがきコンクール」の作品づくりを通して、税金に関して理解と関心を深め、考えるきっかけとなるようにする。

4 総合的な学習の時間、社会科との関連

(1) 総合的な学習の時間との関連

○横断的・総合的な課題(現代的な諸課題)

・自分たちの消費生活と資源やエネルギーの問題(資源エネルギー)

○地域や学校の特色に応じた課題

・町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織(町づくり)

・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会(地域経済)

(文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

総合的な学習の時間編』, 日本文教出版)

(2) 社会科との関連

「租税の役割」については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。その際、限られた財源をどのように配分するのかを決める責任は、国会や地方議会などの制度を通して、国民や住民にあることに触れるようにする。

(文部科学省(2018)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

社会編』, 日本文教出版)

5 指導計画（3時間扱い）

時	主な学習活動	内容
1	○選挙のしくみと税金の働き	・選挙のしくみについて知る。 ・税金の種類と税金が使われている公共施設やサービスについて知る。 ・税金の使われ方と選挙の関わりについて考える。 （社会科）
2	○自分たちの暮らしと税金の関わり	・もしも税金がなかったら？ ・自分たちの暮らしと税金 ・税金の大切さ （石巻税務署の方による租税教室）
3	○身近な消費税について	・実際に買い物をする。 ・レシートを見て、消費税をどれくらい支払ったか調べる。 （総合的な学習の時間）

6 実践

（1）自分と税との関わり

修学旅行の際、児童はおみやげを購入したり、絵付け体験をしたりし、1人約8,000円を使った。そのうちの8～10％は消費税として納税したことを説明した。

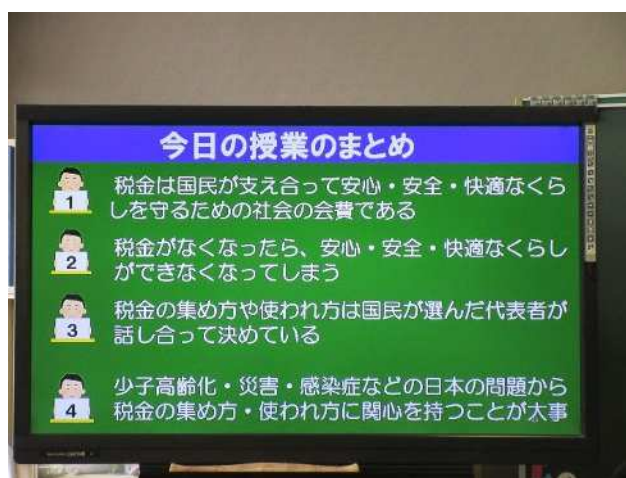
その後、児童は6年の算数で学習した「比」を活用して、実際にいくら消費税を納めたのか金額を算出した。1人につき、700円前後の消費税を納めたことが分かった。感想から「意外と高い税金を支払っている。」「700円あったら、もう1つお土産が買える。」と消費税額の大きさを実感することができた。



(2) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

租税教室の中で、税の種類、税の使い道、納税は国民の三大義務であることを教えていただき、税に関する基礎的・基本的な知識を押さえることができた。

また、特に印象的だったことは、税金が無くなったら世の中はどうになってしまうのか動画で紹介してもらったことである。税金が無くなったら、公共サービスを受けられなくなってしまう。例えば学校の教科書が有料となること。病院での受診・手術などに莫大な費用がかかること。橋や道路が個々人のものになってしまい、不当な交通料を支払わなければならないことなどが紹介された。児童から「税金がないと確実に不安定な世の中になる。税金は国民全員が支払う必要がある。」という感想が挙がり、納税の必要性を感じることもできた。



〈 租税教室の感想 〉

アニメであった税金が無くなるとどうなるのかが想像以上にこわくてびっくりしました。社会で税金などの勉強しましたが知らないことも多くて、国のことを知る良いきっかけになったと思いました。

税金の種類は消費税しか知らなかったけど他にも所得税などの種類もあってびっくりしました。税金は安心安全で快適な社会の会費で税金がないと安心安全で快適な社会ができなくなると思いました。小学校にかかる税金は1校あたり約15億円とびっくりしました。

税金には約50種類もあるのはびっくりしました。税金をはらわないと色々なことが起こる時に救急車に乗って目撃してもらったのもお金がかかるのはびっくりしました。税金はあった方がいいと思いました。税金について教えてもらって税金のことに興味をもつことができました。ありがとうございました。

日本には約50種類の税金があると知って、おどろきました。税金が無くなってしまうと町がゴミだらけになり、通行料を払わないといけなくなる、快適な社会ができなくなってしまうということが分かりました。

(3) 税に対する興味関心の向上

上記の(1)(2)の活動の中で、振り返りの機会を十分に確保してきた。上述した通り、自分と税との関わり、税のよりよい使われ方、消費税額の大きさ、納税の必要性などについて考えたことで、税に対する興味関心を向上させることができたと考え

〈 税に関する絵はがきコンクール 〉



7 成果と課題

- 消費税の納税経験により、税額の大きさを実感することができた。
- 租税教室に参加することで、税について知り、納税の必要性を理解することができた。
- 様々な学習を通して、税金への関心が高まった。
- 税金に関する学習は、社会科の内容だけでは理解が難しい。継続的な学びが必要である。

租税教室



名前

8月30日 (火)

☆学んだことや感想を書きましょう。

☆わかったことや大事だと思ったことをメモしましょう。

租税教育実践発表会資料

石巻市立稲井小学校

教諭 千葉 孝洋

1 はじめに

稲井小学校は昭和56年に大瓜小、稲井小、真野小、金山小の4校が統合して開校した。そのため、学区は広く、児童は集団登校するか、スクールバスで通っている。学校の周りには山や田に囲まれた、自然豊かな学校である。

本学級は、男子13名、女子12名、計25名で構成されている。グループでの学び合いの際に、自分の考えを筋道立てて説明できる児童が多い。一方で問題に対する自分の考えがもてなかったり、気づきや考えを自分の言葉でまとめられなかったりする児童も見られる。授業が積極的に発言する児童中心に進んでしまうことから、ペア学習やグループ学習を取り入れ、少人数で自分の意見を発表し、自信をもたせるようにしてきた。また、身近な事象に対して興味をもつ児童が多いため、税金でスクールバスが運行されていることや、昔は稲が税として支払われていたことに触れ、興味関心を高めていきたい。



2 指導に当たって

社会科学習指導要領解説 P105 において、『『租税の役割』については、租税が国や県、市によって行われている対策や事業などの費用として使われていること、それらは主に国民によって納められた税金であることなどを理解できるようにする。』『税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにする必要がある。』とある。税金は国、県、市がそれぞれ集め、国民のための政策として使われていることを指導していく。

また、租税教育を行う上で、社会科の学習についてのアンケートを実施した。結果は以下の通りである。

- 1 社会科を学習することは好きですか。
好き（8人） どちらかというとき好き（10人） どちらかというとき嫌い（5人） 嫌い（2人）
- 2 どんな種類の税金がありますか。知っている税を書きましょう。
消費税（25人） 住民税（5人） 所得税（2人） 自動車税（2人）
- 3 税金は何をするために使われているのでしょうか。
道路工事（6人） 公園（5人） 公務員関係（5人） スクールバス（3人）
図書館（3人） 学校関係（2人）
- 4 税金は必要だと思いますか。
思う（5人） 思わない（20人）

社会科の学習に対して意欲はあるが、税金についての知識は少ない。知っている税金や、税金が何に使われているかについても、児童にとって身近な知識のみであった。よって、税金があると損をすると感じてしまい、税金は不要であるとする児童が多いという結果になった。税金がどんなことに使われているのかを調べ、もし税金がない場合、どのような生活となってしまうのか考えさせていきたい。

以上のことを踏まえ、次のことを学習課題として設定し、取り組ませていく。

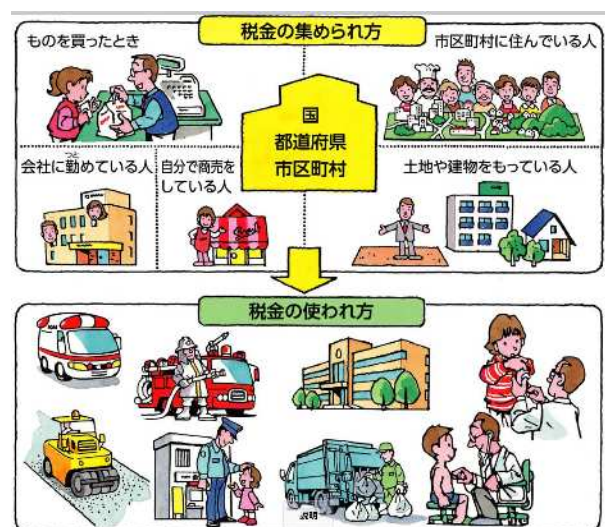
- （1）税金にはどのような種類があるか。
- （2）税金は誰が集めているのか。
- （3）税金は何に使われているのか。
- （4）税金がなかったら、どのような生活になるのか。

3 実践

○第1時「2. 国の政治のしくみと選挙（2）選挙のしくみと税金の働き」

税金の働きについて授業を行った。教科書を用い、税金の仕組みや税金の種類などについて指導した後、タブレットや社会科資料集を活用して、どんな税があるか、税金がどんな使われ方をしたのか調べる時間をとった。児童は日本だけでなく、外国の税金にも興味をもち、まとめる姿が見られた。そこで、日本と外国の税金の違いから、税金はその国の文化によって変わってくることに気付かせた。

NHKforschool「社会にドキリ 権利と義務」の動画から学習のまとめを行い、これから税金はどのようなことに使っていくべきか考えさせた。



東京書籍 新しい社会 政治・国際編 P27 より



NHK for school「社会にドキリ 権利と義務」

○第2時 租税教室

社会福祉法人の方をお招きし、「租税教室」を実施した。学習目標は、国や県、市によって行われている社会保障、災害復旧の取組、地域開発などに必要な費用は租税によってまかなわれていること、それらは国民によって納められていることを理解し、租税が大切な役割を果たしていることを考えることができるようにすること、税金が国民生活の向上と安定に使われていることを理解できるようにすること、である。それを受けての学習内容は以下の5点である。

- 1 税って何だろう
- 2 税の種類と使われ方
- 3 小学生一人あたりに使われる税金
- 4 税金はなぜ必要か。税金のない世界から考えること (DVD視聴)
- 5 一億円はどれくらい

事前に調べたこともあり、1、2について児童はうなずきながら聞いていたが、3、4については驚いた様子だった。5は本当のお金を持った気分になり、興奮した児童が多かった。

この租税教室の後にアンケート調査をし、児童



の変容を見たところ、税金は必要だと答えた児童は25名全員だった。その理由については、

- ・税金がないと面倒なことになる。
- ・たくさんのことに税金が使われている。
- ・道路や公共施設など、役立っている。
- ・税金で国が成り立っている。
- ・税金がないと、逆に損をする。

など、事前に比べて、深まりが見られた。

4 成果○と課題●

○税に関しての興味関心が高まった。

○税の大切さを知り、税はなくてはならないと実感した児童が全員だった。

○将来、税がどんなことに使われると良いか、考えるきっかけとなった。

○税に対しての関心や知識を高めていくために講師を招いて租税教室を実践するのは有効であった。

●租税教育の指導計画は少ない。租税教室を盛り込んだ計画を前もって立て、各学校での計画に位置付けられるようにしていく必要がある。

●租税教育は4月末から5月上旬の間に指導するため、指導計画を作成するには時間が少なかった。

令和4年度

租税教育実践発表会資料

東松島市立鳴瀬未来中学校
教諭 武山 友里恵

1 はじめに

本単元は、中学校学習指導要領社会編の「B 私たちと経済」の(2)「国民の生活と政府の役割」を指導内容として構成したものである。この中項目では、財政及び租税の役割について、国民の生活と政府の役割について関心を高め、課題を意欲的に迫及する態度を育成することを主なねらいとしている。

本単元で取り扱う消費経済や財政、租税の役割などは、租税教育の根幹となる分野であるとともに、生徒の納税者としての意識や自覚を育む上で重要な単元である。財務省によると、我が国の財政収支は2008年のリーマンショックの影響により、他の主要国と同様に悪化し、その後改善傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症への対応のため、2020年はリーマンショックを超える赤字幅となっているとされている。また、普通国債残高は、累増の一途をたどり、令和4年度末には過去最高の1,026兆円に上ると見込まれている。さらに、債務残高の国際比較を見ても、我が国は主要先進国の中で最悪の水準となっていることから、財政の持続性がより一層求められている。

このような、切迫する課題に対して、その課題が生じている背景や現状、今後について考察し、自分の意見をまとめる活動を重ねることによって、納税者としての自覚や責任が生じるきっかけになり、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識を高めたり、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしたりする態度の育成を図ることができると考える。また、社会資本の整備や日本国憲法における納税の義務の意義などを考察することを通じて、政治的な関心や意欲を高め、将来国政に参加する公民としての態度を育成することができる重要な単元である。

2 生徒の実態（3学年生徒 男子19名 女子17名 計36名）

本単元の学習内容に関するアンケートの結果は以下の通りである。

○税ときいて、どのようなことを思いつきますか。（6月24日実施、回答31名）

回答内容	
税の種類に関する回答	消費税（6人）、所得税・固定資産税（2人）、関税・酒税・たばこ税・納税・働いている人の給料（それぞれ1人）
税に対して比較的肯定的な意見	国が一つになっていると感じる、税金がないと救急車や警察を呼ぶのにお金がかかるようになるため必要である、国民を支えるためのお金、国が使うお金に変わる、市に払わないといけないお金、ものを買うときに払うお金、中学生も払う、国やみんなのために使われている、大切なもの、自分のためにも必要なもの、生きていくため、生活する上で税は必要なため少し高くても仕方ない
税に対して比較的否定的な意見	お金を取られている感じがする、高いけど払わなければいけないお金、あるべきものではあるが、消費税は5%にしてほしい、政治家が不正に使っている、少し高い気がする、国民にも何に税金を使っているのか教えてほしい、すべての商品の消費税を同じにしてほしい、おつりの計算が面倒、税が高くなっている、わかりにくい、日本の社会を回して行くのには大切なことかもしれないけれど今の税金は少し高すぎる

○税金の使い道について、知っていることを書いてください。

公務員の給料（11名）、公共事業（7名）、教育費（6名）、政治（4名）、年金・給付金（2名）、日銀への返済（1名）

○東松島市ではどのくらいの税金が納められていると思いますか。

100億円以上（2名）、1億円以上（8名）、1000万円以上（6名）、1000万円以下（3名）

○東松島市の税金はどのようなことに1番使われていると思いますか。1つ選んでください。

災害復旧費（12人）、教育費（6人）、総務費（3人）、農林水産業費（3人）、民生費（4人）、土木費（1人）、議会費（1人）、公債費（1人）

税金の大まかな使途など、税金の種類についての知識を持つ生徒がいることが分かった。また、税金を取られている、消費税を下げしてほしいなど、自らが納税をしているという意識を持つ生徒がいることが分かった。

歳出については、社会資本の整備や公務員の給料、公債など、多様な用途が挙げられた。また、東松島市の歳入については、幅広い回答内容となり、歳入に関して具体的なイメージを持つことができていない生徒がいることが予想される。歳出については、税金が災害復旧費に使用されていると認識している生徒が多く、次いで教育費、総務費となっていることが分かった。

3 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、財政に関する諸課題について着目し、主権者として、より良い社会の構築に向けて、その課題を解決したり、探求したりする力を育成することを目標とする。

その際、基礎的な知識の定着を図るとともに、納税者として自覚や責任といった意識を高めることができるよう、生徒自身の生活と密接した社会的な課題について、考察したり、表現したりする活動を行っていく。また、生徒自身の生活の中に、どのくらいの税金が使われているのか、今後どのような税金の在り方が有効なのかといった課題を考え、議論していく時間を設けることで、より実感を持って学習に臨むことができるようにしていきたい。

4 指導計画

時数	学習内容	学習目標
1 (本時)	・納税の義務がある理由について、資料から調べたり、まとめたりする。	・税金の義務の意味について、自らの生活経験などを踏まえながら考察し、表現する。
2	・税金の種類や仕組みについて、調べたり、まとめたりする。	・税金の種類や仕組みについて、理解する。
3	・国や地方公共団体の財政政策に関する資料を読み取り、現状や課題について調べたり、話し合ったりする。	・国や地方公共団体が果たしている経済的な役割や課題を考察し、表現する。
4	・社会保障制度の仕組みについて、調べたり、比較したりする。	・日本の社会保障制度の仕組みについて理解する。
5	・今後の国や地方公共団体の財政や社会保障の在り方について、複数の資料から考察し、まとめる。	・少子高齢化における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を考察し、表現する。

5 本時の学習

(1) 題材名「財政の役割と課題」

(2) 目標

- ・納税の義務の必要性について、自らの生活経験と関連付けて考察し、表現している。

【思考力、判断力、表現力等】

(3) 本時の学習過程

段階	学習活動 ○指示、質問／◎主発問／・予想される生徒の反応	形態	・指導・支援上の留意点
導入 10分	1 税金に関するイメージを全体で共有する。 ○「皆さんに税金のアンケートをしてもらいました。皆さんの税金のイメージについて確認してみましょう。」 ○中学生が1年間にどのくらいの消費税を納めているかを問うクイズ 「中学生の皆さんは、1年間にどのくらいの税（消費税）を納めていると思いますか。」 【選択肢】①1万円以上 ②5000円～1万円 ③5000円以下 ○国民負担率を問うクイズ 「日本に住む人々は、平均して1年に何%ぐらいの税金を納めていると思いますか。」 【選択肢】①収入の半分近くの税金を納めている。 ②20～30%の税金を納めている。 ③10%未満の税金を納めている。 ○「納めている税金の額を聞いて、どのような感想を持ちましたか。」 ・とても高いと感じる。もっと少なくてよい。 ・大人がこんなに納めていると思わなかった。 ・案外少ないと思う。もっと納めていいと思う。 2 学習課題を記入する。	全体 全体 全体 ペア ↓ 全体 全体	・事前に実施したアンケートを提示し、税金に対してどのような考えを持っているか全体で共有する。 ・あらかじめ jamboard にクイズを掲載し、回答させる。 ・学年のアンケート結果をもとにした中学生の納税額のデータを提示し、普段の消費の中で納税をしているという意識を持たせる。 ・国民負担率があくまでも平均化された負担率を表しており、全ての国民が同じ負担率ではなく、収入や年代によって負担率が異なることを確認する。 ・どのくらいの金額を負担しているのか、具体的な例を提示し、税負担のイメージを持たせる。 【例 年収500万円のうち、30%の租税負担率の場合の納税額は150万円となる。】 ・2つのクイズを受けて、感じたことなどを意見交換させる。 ・多くの感想を共有させるために、多くの生徒を指名する。
学習課題：どうして、税金を納める必要があるのでしょうか。			
展開 30分	3 自らの生活経験と関連付けさせながら税の使途を調べ、税の社会的な役割や必要性について考察し、まとめる。 ○「1日の生活の中で、どの場面でどのくらいの税金が使われているのでしょうか。」 ○「自分の生活の中で税金が使われていると思う場面を複数挙げ、税金が使われている場面とその金額を調べてみましょう。また、住んでいる地域や町で使われている税金についても調べましょう。」 資料A 宮城県 私たちの暮らしと税 資料B 中学生の税に関する作文 (さいたま市立大宮東中学校2年齋藤さんの作文) 資料C 鳴瀬未来中学校事業等に関する資料	班 班	・机間巡視の際に迷っている生徒や資料の読み取りができていない生徒に対して、資料や教科書のイラストなどを参考にしながら、課題を進めるよう促す。 ・資料を classroom に掲載する。 ・具体的な税金の使途や費用を調べたり、計算したりする活動を通じて、自分の生活に費やされている税金の多さに気付くことができるようにする。

	◎「税金は、社会でどのような役割を果たしていると言えるのでしょうか。」 ○「理由をしっかりと考えて、班の意見をまとめましょう。」 ○「各班のまとめを発表しましょう。」 ・税は、私たちの生活を助ける役割を果たしている。 ・税が無いと教育を受けるのに更にお金がかかるため、教育を支える役割を果たしている。 ・納税の仕組みが無いと、自分の生活だけでなく社会全体が機能しないため、重要な役割を果たしている。 ・税は、人々が一定の生活水準を保って生活できるようにする役割を持っていると言える。	班 班 ↓ 全体	・悩んでいる班に対して、税金が無い社会を想像した時に、どのようなことが起こるのか考えさせたり、税金があることによって支えられている場面について考えさせたりする。 ・班で出た意見をワークシートに書き移すよう促す。 ・発表者を一人決めるよう促す。 ・複数班を発表させ、多様な意見に触れさせる。
終 結 10 分	5 ふりかえりシートを記入する。 ・「本日の学習を通して、納税の必要性について、改めて考えたことや分かったことをふりかえりシートに書きましょう。」 6 次回予告を聞く。 ・「次回は、国や地方公共団体の歳入について学習します。」	個人 ↓ 全体	●納税の義務の重要性について、自らの生活経験と関連付けて考察し、まとめている。 【思考・判断・表現】 ・東松島市の予算に関するデータを提示し、次回学習する内容想起させる。

6 生徒の感想

- ・税金は高く、よくわからないものでしたが、やっとスッキリした気がした。
- ・1人あたりの1ヶ月の教育費が高校生より中学生のほうが高いことに驚いた。
- ・『税金が果たす役割』で、自班からは出なかったが、他班から国民や国の安全の保証というものも出てきて、それもあるかと思った。税について改めて考える機会になった。
- ・給料から国のためにお金を払わないといけなかったり、消費税を支払ったり、中学生のうちから社会のためのお金を払っていることがびっくりした。税金がないと救急・消防・警察を運営できないから必要なものだと思った。
- ・私は最初、税に対して「お金をとられる」「高い」というマイナスの意見しかなかったが、今回の授業で税金の役割を知り、税を払うことにも意味があり、私達はかなりの恩恵を受けているということがわかった。また、私達の通学路の整備なども税金が使われていることを知って、意外と身近に税金が関わっていることにびっくりした。大人になったらもっと税を払う機会が増えると思うが、しっかり払って行きたいと思う。
- ・税金にいいイメージがあんまりなかったため、税金について学んでいいところをたくさん見つけて行こうと思った。学校の設備や、警察も税金の役割の一部だということがよくわかりました。支えられる側でもあり、支える側でもあるのかなと思いました。
- ・税金の果たす役割とは、私たちが安全な生活を送るために必要なものだと思った。税金は警察や消防にも使われているので税金を払う必要がなくなってしまったら安心安全な生活を送ることができなくなったりしてしまうので税金は必要なものだと思った。
- ・やっぱり知らないだけで結構生活していく中で税金にお世話になってるし、世の中のみんなが生きるための、生活していくための、経済という意味でも税金が必要だと思った。
- ・税は国民みんなの貯金だと思っています。だから不便だなとか思ったら、税を使って補修することができるので必要だと思いました。

- ・税は、私達が豊かな生活を送ることや、現在の生活の維持をするにも税は関係しているから、すごく必要だと思った。税というのは将来ずっと一緒に生きていかなければならないことだと私は考えた。
- ・学校や道路、上下水道など、私達が当たり前利用している建造物が、税金を利用して建てられていたり、建造物以外にも、警察、消防、公共サービスで税が使われている。こう考えると、税金がない世界なんて考えられないし、私達の日々の生活の中で、税金は欠かせないものだと思う。

7 成果と課題

授業実践を終えての成果と課題は、以下の通りとなった。

成果	課題
・事前アンケートやクイズの結果により、関心が高まり、自分事として考えられていた。 ・資料が鳴瀬未来中のものに対するものであり、具体的な金額も提示してあり、生徒が身近に感じる意欲を高める資料だった。 ・税金の例（金額を含め）どの生徒も知っているものを取り上げていたため授業の導入から生徒の興味を引き付けることができていた。 ・個人でまとめる際、班で共有した際に自分では気付かなかった視点に気付き、納得している生徒が見られた。	・税金が使われている場面を、税金を使う場面と混同している生徒がいた。 ・本時では、最後肯定的な意見にまとまったが、否定的な意見を提示して、更に思考を深めるにはどうしたらよいか。 ・税金がなかったら、どういう暮らしになるかを考えさせると、より身近で大切なもの、という捉えだけになるのではないか。 ・生徒の中で具体化があまりできていなかったように感じた。

8 終わりに

今回租税教育として授業実践を行った成果は、税に対して否定的な意識を少しでも変化させることができたことである。授業実践前に行ったアンケートからは、税に対する否定的かつ偏った見方をする回答が多かったが、授業実践後に税への考え方が変わったと答える生徒が増え、生徒の税に対する意識の変容が見られた。

一方で、課題は税を自分事として深く捉えさせることができなかったことである。本時では、生徒が税を身近に感じることができるよう、生徒の生活場面に使用されている税金の具体例などを提示したが、振り返りでは「税は必要なものである」「税は私たちの生活に無くてはならないものである」など、かなり抽象的な意見が多く見られた。よって、生徒自身の生活が税によって支えられているという感覚を芽生えさせ、更に税に関して思考させるためにも資料だけでなく、発問の吟味が重要だと感じた。

本単元の最後に行った授業では、日本の税の在り方について、高福祉または低福祉の社会にしていくなかを考えさせた。その結果、現在の社会保障を維持するためには、税の負担率が高まっていくことは仕方がないと回答する生徒が多く見られた。このことから、終末の授業にかけて税が高い、税の負担を減らした方がよいと捉えていた生徒の意識が変わったことが予想される。このような生徒の意識や考え方の移り変わりが税に対する意識を高めていくうえで重要だと感じた。

今後は、人権の歴史や日本国憲法、政治の学習へと移行するため、今回行った税の学習を軸としながら、授業実践を行っていきたい。

令和4年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立雄勝小学校

教諭 齋藤 咲花

1 はじめに

当学区は旧雄勝町からなり、その多くはリアス式海岸の天然美を誇る地である。震災前の生産の基盤は水産業、硯スレート業、水産加工業に区分されていた。特産の硯は伝統工芸品として国の指定を受けている。震災により人口が 4000 人から 1000 人に減少してしまった。地域や保護者の学校の教育活動に対する関心は高く、協力的で地域復興・学校復興への思いも強い。

本校は、平成 29 年 4 月に旧雄勝小・中学校と旧大須小・中学校が統合し、新設校としてスタートした。石巻市雄勝地域唯一の学舎として子供たちの教育を担っている。

子供は明るく素直で、学習や運動に一生懸命取り組んでいる。旧雄勝町地区に居住する児童生徒のほか、東日本大震災で被災し、地区外からバス通学する児童生徒も多い。令和 4 年度からは、公益社団法人 MORIUMIUS（モリウミウス）の漁村留学による生徒の転入学もある。また、小中併設校という特色を生かし、小中合同行事の開催や、中学校の教員が小学校へ授業を教えに来るといった取り組みも行われている。

2 児童の実態

本学級は第 5 学年と第 6 学年からなる複式学級であり、第 5 学年は男子 4 名、女子 1 名、第 6 学年は男子 1 名、女子 3 名の計 9 名で構成されている。6 年生は社会科で日本国憲法や国民の義務について学習しており、税金についても少しだが触れている。一方で 5 年生は税に関する学習は初めてである。そこで今回、租税教室を実施するにあたり、児童が税金についてどのように捉えているのかを把握するため、アンケートを行った。結果は以下のとおりである。

質問	回答 8 名
1 税金にはどんな種類があるでしょうか。	・消費税（3 名） ・食費税（1 名） ・わからない（4 名）
2 税金は何に使われているでしょうか。	・建物を建てる。 ・学校の教科書のお金になる。 ・ロケットの開発になる。 ・天皇陛下にあげる。 ・国民に使われる。 ・わからない。（3 名）

3 指導にあたって

税金とは、国民の生活を支え、豊かな社会を形成するために必要不可欠なものである。それと同時に、私たちにはそのサービスを支え、維持していくために納税の義務を果たさなくてはならない。将来を担う子供たちにも税の種類や使い道、必要性について学習する必要があると考える。

そのため、今回、「税のしくみ」について取り上げ、調べ学習を通じて学習に取り組ま
せることで税金について身近に感じさせ、考えを深めさせたい。

アンケートの結果から、身近な税金である消費税については知っている児童が複数い
る一方で、わからないと答えた児童が約半数いた。そのため、まずは租税教室前に税金の
種類について知ることができるよう、調べ学習を行う。また、税金の使い道についての知
識も乏しいため、この機会に、正しい知識を身に付けさせたい。

6年生については小中連携により、中学校の先生から税について指導を受けている。今
回の租税教室を通して税金に関する知識や考え方を確かなものにしていきたい。

また、5年生については社会科の授業の中で税金について学習する機会がないため、租
税教室を通して税金についての知識を身に付けさせたいと考える。

4 指導計画

時	主な学習活動	評価規準と評価方法
1 本 時	・税金の種類や使い道についてタブレッ トを活用し、調べ学習を行う。	【態度】税金に関心を持ち、意欲的に調べ ている。 【知・技】税金について正しい知識を身に 付けている。
2	・租税教室に参加し、税についてのお話 を聞く。	【態度】税金についての話に関心を持ち、 意欲的に取り組もうとしている。
3	・税金のしくみについて、タブレットを 活用し、調べる。 ・税について分かったことや考えたこと を振り返る。	【知・技】タブレットを使って正しい知識 を身に付けようとしている。 【思・判・表】税金について学習したこと を通して、自分の考えを深めている。

5 指導課程

	主な学習活動	指導上の留意点、評価
導 入	1 アンケート結果を共有する。	
展 開	2 税金について調べ学習を行う。 ○税金にはどのような種類がある のでしょうか。 ○税金の使い道を調べましょう。 3 税金の種類や使い道について調べ たことを発表する。	・アンケートの問いをもとに、実際はどの ようになっているのかについてタブレッ トで調べ学習を行うよう指示する。 ・国税庁のHPなど、信頼のおける情報を 選ぶことを伝える。 【知・技】税金について正しい知識を身に 付けている。(ワークシート、態度)

	・ 国税と地方税の2つに分けられた。 ・ たばこ税や自動車税のような名前のものもある。 ・ 身の回りのものに多く使われていた。	
まとめ	3 本時の振り返りをする。	・ 調べて分かったことや考えたことを共有する。

6 児童の様子

アンケートにもあった通り、児童は税金の種類などの知識は乏しく、あまり想像がついていない様子だった。調べ学習を進めていくと、様々な種類の税金が出てきて、「こんなにあるの」と言った驚きの声も聞こえてきた。また、税金はさらに国税や地方税に分けられるといったことまで調べる児童も見られた。

また、税金の使い道を調べていくと、学校に使われていたり、道路に使われていたり身近なところに多く使われていることに気づくことができた。



7 調べた内容

1 税金にはどのような種類があるのでしょうか。

国税… 所得税、法人税、消費税、酒税、たばこ税、相続税、
 贈与税、自動車重量税、復興特別所得税、印紙税
 地方税… 住民税、事業税、固定資産税、地方消費税、自動車税、
 (県税、市町村税) ゴミ処理利用税、軽油引取税

2 税金の使い道を調べましょう。

国税の使い道

- ・ 社会保険費 (健康や生活を守る)
- ・ 公共事業費 (道路や住宅などを整備する)
- ・ 科学振興 (教育や科学技術の研究の助)
- ・ 防衛費 (国の防衛のため)
- ・ 経済協力税 (海外援助など)
- ・ 新しい研究や開発

地方税の使い道

- ・ 福祉と保険に 16.9%
- ・ 教育と文化に 16.5%
- ・ 労働と経済に 6.5%
- ・ 生活環境 2.9%
- ・ 都市の整備 11.9%
- ・ 企画・総務 7.8%
- ・ 公債費、税関特別経費 25%
- ・ 警察と消防 12.6%

1 税金にはどのような種類があるのでしょうか。

国税

- ・ 所得税・法人税・相続税
- ・ 贈与税・消費税・酒税
- ・ たばこ税・自動車重量税

地方税

- ・ 住民税・事業税・地方消費税
- ・ 固定資産税・自転車税

2 税金の使い道を調べましょう。

主に国民の生活や健康、安全を守るために使われている。また、教育や科学技術振興に関する支出は国の国際的な競争力を高める投資としても重要です。

税金の使い道として最も割合の大きいのが社会保障系です。医療、年金、介護など、私たちの生活を守るために欠かせないものです。

8 租税教室の様子

租税教室では、石巻法人会の先生が税金の使われている身近な場所の紹介や、税金の種類についてスライドで分かりやすく説明して下さった。その後、DVDを視聴し、税金がなくなったらどのような世の中になるのかを考えた。子供たちにとって、税金は様々なところで使われていることを知り、なくてはならない大切なものであるということを実感できる貴重な機会となったと考える。



9 児童の感想

【感想用紙】

税金にはいろいろな種類があって、いろいろなことに使われていることを知りました。税金がなくなったら、メリットもあるけど、デメリットのほうが多いと思います。税金は、あんなほうがいろいろ、税金はたくさんとらえるのも大変だと思います。

【感想用紙】

アニメを見て、税金が無いと建物が壊れても、なおさないのがおもしろい。大量のお金をはらわなければならないから、税金は大事に使っていかなくちゃいけないことが分かった。

【感想用紙】

税金はどのような事に使われて、税金が無くな
たらどうなるのかを知りました。そして、ゲームをつくる
のに1億円を使うのがびっくりしました。もし、税金
無くなり安心、安全な社会がいいなと思いました。

【感想用紙】

税金について

税金がなにこわれてはしがないお金のたまり
しんこうがなめかなたりコでがすと
おま、はなはじまうがよこれていくこと
がわかった。

10 おわりに

本時の学習、租税教室、振り返りの学習を通して、子供たちの税金に対する知識は深まったと感じる。特に、税金がなくなってしまった世の中をシュミレーションすることで、税金の必要性が強く印象に残った児童が多かった。また、税金の負担について考えている児童もいたため、学級で話し合う機会を設定し、一層、税金への意識が高まるようにしたい。この学習は将来を担う子供たちにとって貴重な学習になった。

令和4年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立荻浜中学校

教頭 白石 善郎

1 はじめに

現代の日本は国民主権であり、全ての国政は国民のために行われる。そして、人権の保障もなされている。これらの日本の根幹となる部分を維持していくためには、国民それぞれが協力し合わなければならない。その最も重要な部分として、社会資本やサービスを充実させるために必要となるものが税である。言い換えれば、税によって国民の生活が守られている。

その一方で、税の最たる負担者の社会人でもその使途については十分理解しているとは言い難い状況がある。そのため、税は『納める』ものというよりも『取られる』ものという感覚が強くなっているように思われる。また、近年は不景気もとも相まって税の無駄遣いの面が大きくクローズアップされている。その他様々な状況から、豊かな社会は作りたいものの税はできる限り払わないでいたいという考えが増えているのではないだろうか。

そこで、豊かな社会を実現していくためには国民が協力して資金を出し合うことが必要であり、そのために税が国民の義務となっていることを理解させたい。そして、社会を支えるのは国民一人一人であることを確認させたい。さらに、このことによって納税だけではなく、その税の使途を決定する内閣や国会が国民の意思を尊重しなければならないことに気づかせたい。

2 生徒の実態〔第3学年1組 男2名〕

授業に真剣に取り組む、タブレットを用いた調査活動も積極的に行い、自分なりの考えをまとめることができる。その一方で、必要性を感じていないために、新聞やニュースなどにはほとんど目を通していないために、現在起きている社会的事象に疎い面がある。そのため、毎時間新聞を提示している。

生徒が2人しかいないために、話し合いがあまり深まらない面があるので、上記のようにタブレットを活用して、様々なことについて調べながら学習を進めている。

【事前アンケートの結果】

①知っている税

消費税，所得税，固定資産税，相続税，年金，健康保険

②税金について考えていること

みんなのために使う，道路やいろいろなものを作るために必要

3 指導にあたって

現代の日本は国民主権であり、全ての国政は国民のために行われる。そして、人権の保障もなされている。これらの日本の根幹となる部分を維持していくためには、国民それぞれが協力し合わなければならない。その最も重要な部分として、社会資本やサービスを充実させるために必要となるものが税である。言い換えれば、税によって国民の生活が守られている。

そこで、豊かな社会を実現していくためには国民が協力して資金を出し合うことが必要であり、そのために税が国民の義務となっていることを理解させたい。そして、社会を支えるのは国民一人一人であることを確認させたい。さらに、このことによって納税だけではなく、その税の使途を決定する内閣や国会が国民の意思を尊重しなければならないことに気づかせたい。

4 指導計画(4時間扱い、本時1／4)

学習時間	題材名
第1時	私たちの生活と財政(本時)
第2時	政府の役割と課題
第3時	社会保障のしくみ
第4時	少子高齢化と財政

5 本時の指導

(1) 題材名 「私たちの生活と財政」

(2) 目標

- ・身近な事例を通して、税を自分のこととして考えることができる
- ・税の必要性について学習を通して理解できる。

(3) 指導にあたって

国民生活を円滑に豊にしていくためには税が不可欠であることを自覚させたい。そのため、実際に税を用いて作られている施設や設備などをあげさせることによって身近なものとしてとらえさせたい。そこから、義務化する必要性について考えさせたい。

タブレットを用いて調査を行わせることで、より自主的に詳しく学習を進める。

(4) 指導過程

	学習活動と予想される生徒の反応	教師の支援
導入	1 石巻市内でみんなのためにあるものをあげる。 ・公園、学校、道路、交番、消防署、コンビニ、スーパー、幼稚園など 2 みんなのためにあるものは誰が経営しているか考える。 ・国、市、社長など	・なるべく多くの意見をあげさせる。登校するまでの間にあるものなどを思い起こさせる。 ・社会資本や公共サービスのものについて考えさせる。 ・市のホームページを利用して確認する。 

展 開	3 国民全体のために使うお金はどのように準備すればよいか考える。 ・金持ちが出す，税として集める，必要な人が出す，国会議員が出すなど 4 国民生活に欠かせない税の種類を確認する。 ・直接税と間接税の違いや国家予算の税収を知る。 5 年収に差がある場合に所得税の課税割合はどうしたらよいか考える。 ・同じ割合，金持ちは多く払う，少ない人は払わなくていいなど 6 累進課税制度について確認する。 7 国民から集めた税をどのように使ったらよいか考える。 ・みんなのため，困っている人に使う，無駄にしてほしくないなど	・みんなが必要なものはみんなが出しあわなければならないことに気付かせる。教科書が無償であることなどにも触れたい。  ・10%の消費税も全国から集まれば大きな額になることなどに気付かせたい。 ・年収に差があった場合に生活に必要な費用をどうしたらよいかを気づかせる。 ・累進課税の割合はプリントで配布する。 ・自分たちも消費税などで納税している負担者であることを自覚させて，考えさせる。 
終 結	8 税の使い方についての意見を発表する。 ・質問や反対意見もあれば発表する。 9 次時の予告	・なるべく多くの意見を取り上げる。

6 成果と課題

【成果】

税に対する意識として以前よりも必要性を強く感じたようである。特に社会資本で自分たちが知っているものよりもはるかに多くのものが税によって成り立っていることに気付いたようである。

また、自分たちが納めている消費税のみならず、家庭内でも親や祖父母、兄弟などが納めている所得税やその他の税についてもどのような使われ方をしているかという関心が出てきたようである。

授業後にも税に関する質問をする生徒がいるなど税への関心や詳しく知りたいという欲求が生まれている。

【課題】

税に対しての関心を持ち、より深く学びたいという生徒がいる一方で、依然として税は「取られる」ものという意識で悪いイメージを持っている生徒がいることも事実である。今後の授業で引き続き、必要なものであることを考えさせていきたい。

また、今回の実践では教師主導の授業で行ったが、機会があれば税務署による租税教室の利用も今後行っていきたい。また、ビデオやホームページなどもタブレットの導入に伴い、生徒自身が活用すればさらに効果的に身近に感じさせることができたのではないと思う。

今後は税の行方に関心を持たせながら将来の社会資本を考えさせながら、財政政策について調べさせたい。

1 はじめに

中学校学習指導要領解説社会編解説では、公民的分野（２）内容Ｂ「私たちと経済（２）国民の生活と政府の役割」で、ア（イ）「財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること。」、イ（イ）「財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。」とある。また、アの（イ）については、「税の負担者として租税の使いみちや配分の在り方を選択・判断する責任があることなどについて理解と関心を深めるなど納税者としての自覚を養うことが大切である。」とし、イの（イ）については、「国民や住民が受ける様々な公共サービスによる便益と、それにかかる費用に対する負担など財政の持続可能性に関わる概念などに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることを意味している。」とある。

以上を踏まえて、税は身近なものであり、大切なものであること、今後にも繋がっていくものであることに気付かせたい。

2 生徒の実態

税に関する学習をするにあたって、実施したアンケートの結果は以下のとおりである。

（対象生徒 1 学年 7 名）

①税に対してどのようなイメージがありますか。（自由記述）

嫌い（１）、お金を払う（１）、税がよく分からない（３）、人によって支払う額が違う（１）、何に使っているか分からない（１）、あまり良いイメージがない（１）

税について理解していない生徒や負のイメージを持っている生徒が多いことが分かる。

②どのような税を知っていますか。（複数回答可）

消費税（５）、納税（２）、所得税（２）、地方税（１）
教育で使っている税金（１）

消費税といった一般的な税は知っているが、復興や道路建設に関する税については知らないようである。

③税についてあなたの考えや思いを書きなさい。（自由記述）

分からない（３）、なくなったら大変（１）、お金がかかるのは大変（１）、国のために使ってくれるのは良い（１）、人々が働きによって税を集めることができる（１）

税が必要であることは理解しているようだが、何に使われているかの理解が乏しいため、負のイメージをもっていることが考えられる。

3 指導にあたって

本校は、宮城県沿岸部にあり、11年前の東日本大震災において、大きな被害を受けた地域である。最近では、牡鹿地区の道路整備の工事も頻繁に行われており、地域の復興や教育活動など、身近なところで税が活用されていることに気が付けたい。本来であれば、税に関する内容は、3学年の公民的分野の学習で大きく扱うところであるが、1学年の歴史的分野の学習で税の始まりとも言える租調庸について学んでいる。1学年のうちに国税庁のホームページの資料を用いて、歴史的な側面から税について学習することで、今後、税の学習についてより主体的に考えることができる生徒を育てていきたい。

4 実践

国税庁のホームページにある「税の学習コーナー」を活用して、学習を進めた。各校種に合わせた内容が掲載されているため、生徒の実態に合わせて活用することができた。

(1) 税の歴史について

税の歴史について学習した。これまでの歴史の学習で、税の初めは食べ物だったということを学んでいるので、スムーズに指導することができた。また、租税制度が奈良時代から始まり、現在まで形は変われど続いていることに驚く生徒もいた。

(2) 税の種類と国の歳入

どのような税があるのか、またそれを、国はどのようなことに使っているのかを調べた。税が震災からの復興や道路の整備に活用されていることを理解することができた。自分たちの教科書などにも活用されていることを初めて知る生徒もおり、大切に使い続けたいと話していた。

(3) 税がなくなるとどのようなことが起こるのか

このように、様々な場面で税が活用されていることを学習したうえで、税がもしなくなってしまうたらどうなるかを考え、税の大切さについて改めて考えた。

授業の感想の場面では、「自分たちの生活の中でこんなに税が使われているとは知らなかった」・「税は嫌なものだと思っていたけど印象が変わった」など、今回の授業で税に対するイメージが変わった生徒がいた。

5 成果と課題

租税について、正面から取り上げる学習を、今回改めて1学年の歴史的分野の中に取り入れ、租税の学習をこれまでより大きく取り扱う形とした。1学年のうちから租税についての学習を意識することで、日常生活の中で、当たり前のように支払っている税が実際どのような場面で使われているのかを理解し、税の大切さを考える良い機会となった。また、こうした機会を活用することで、財政について学習する際にも租税のこれまでと今後について考察させる学習の深まりが期待できることも分かった。しかし、税負担への負のイメージが色濃くついている生徒もいたので、税については、実態に応じて慎重に扱いながら、見方や考え方を育成していく必要性を強く感じた。今回このような機会をいただいたことで私自身も、税について改めて生徒と一緒に考えることができた。

税について

課題: 税がなくなったらどうなるの？

1

◎そもそも税って何???

みんなのために役立つ活動
社会での助け合いのための活動

2

税にはどんな種類があるのか調べよう!!

5分以内でいくつ
見つけれられるかな?

3

◎具体的に税は何に使われているのかな?

国税庁のHPを参考にして, 税が何に使われているのかプリントの4つの項目に書きましょう!!

10分以内でどのくらい
書けるかな?

4

◎税について知ったところで・・・

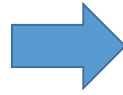
**もし税がなくなったら
どうなると思いますか？**

5

税について

課題：

◎税って何？



◎何に使われているの？

【社会保障】

【公共事業】

【教育費】

【公的サービス】

◎税がなくなったらどうなると思う？

◎授業を振り返って